



コミッショントミサイルは語源が同じ | 金融・経済の英単語



「コミッショントミサイル」の語源は、英語の「Commission」と同じく、「委任、委託」を意味する言葉です。この言葉は、本来は商取引における「委任、委託」を意味します。「委員会」を思い出す方もいらっしゃるかもしれません。
-erをつけて「委員会の理事」という意味をもたせたのが、プロ野球でおなじみの「コミッショナー（Commissioner）」です。

委員会を表す英語にもうひとつ、committeeという単語もあります。こちらは動詞commit（過失などを犯す、委託する）の綴りに近いですね。

動詞の名詞形

commitment（委託、交流、犯行など）は、「コミットする」とか「コミットメント」という言い方で日本語化しています。この場合は「かかり合い」「参加」「貢献」のニュアンスで使われているようです。ちなみに commitment は、金融用語で「有価証券の売買契約」という意味でも使います。

さて、commit の由来ですが、接頭辞の com-（この場合は「～に対して」の意味）と mittēre（送る）というラテン語の動詞が接合してできました。「ある人に対して送る」ことから意味が転じて「委ねる」という意味になったのです。

このラテン語の mittēre

という動詞は、実に多くの言葉のもとになっています。ラテン語系の接頭辞をつけて、思いつくままあげてみましょう。

○ ラテン語 mittēre から派生した単語

接頭辞動詞形名詞形「前方」の ad-admit（許可する）admission（入場許可）「外部へ」の ex-emit（出す、放つ）emission（紙幣発行）「対立」の ob-omit（省略する）omission（省略）「予め」の pre-permit（許可する）permission（許可）「再度」を示す re-remit（送金する）remittance（送金）、remittance slip（入金伝票）、remittance advice slip（送金通知書）

動詞に "mit" という音が出てきますが、なかには -mise という過去分詞形が英語になった言葉もあります。

例えば「予め」のニュアンスをもつ接頭辞 pre- がついた premise（前提）などです。複数形の premises

になると、「譲渡財産、不動産」という意味がありますので、こちらも金融英語として覚えておきましょう。

「前方」を意味する pro- がついた promise（約束する、約束）の現在分詞形 promising は、「前途有望な」という意味です。形容詞形の promissory で覚えておくべき金融用語は、promissory notes（約束手形）でしょうか。

「離れて」の意味の dis- がついた
dismiss (解散させる、解任する) の名詞形は、dismissal (解散、解雇) です。

先ほどのラテン語 mittere (送る) の過去分詞から誕生した語に、message があります。「送られるもの」という意味が転じて「メッセージ」になったのですが、これを運ぶのは「メッセンジャー」 messenger です。

「ミサイル (missile)」は「送られ」たくないですが、これも mittere から派生した語で、元は「送ることができる」という意味です。

文：猪浦道夫・天宮徹也（共同執筆）／編集：M&A Online編集部